

【第3号議案】

平成30年度事業計画書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

特定非営利活動法人 ザ・ピープル

1. 事業の目標

平成30年度については、本会が現在置かれている社会状況を踏まえ、以下のような重点目標を掲げ、事業の推進に法人全体として取り組んでいくことを計画している。

(1) 古着リサイクル事業の地域内循環に向けたビジネス性の確立

古着リサイクル基盤事業の体制を見直し、スタッフへの負荷を軽減しつつ効率的な運営が実現できるようなものへと改変する。特に、回収から反毛工程への搬出に至る一連の工程に関しては、早急に体制の見直しを図り、一部のスタッフへの過剰な負荷を軽減するよう務める。エコウールリサイクル事業が最小限の人員で回せる仕組みを整備するため、機械の導入や納入先の再検討など今ポイン的な対策を探る。

チャリティーショップ運営に関しては、各店の個性を尊重し、独自の運営の中から更に良い形を生み出せるよう心がける。

(2) 日本チャリティーショップ・ネットワーク内での活動の連携促進

参画団体間の情報共有に協力するとともに、ネットワーク参画団体としての事業内容の充実に努める。

(3) 古着を素材とするリメイク品・反毛手法を生かした手工芸品による事業展開の促進

お直し価格設定の見直し。布ぞうり教室等の啓発事業の充実。

(4) 海外の団体とつなぐ活動の展開

今年度当初 JICA から採択通知のあったミクロネシアの非電化地域に対する技術供与支援事業（いわきおてんと SUN 企業組合による技術供与）を実施するための事前準備に着手。また、タイ国ナーン県の少数民族貧困家庭への奨学金供与を大学卒業した奨学生と共に継続実施する。

(5) 東日本大震災後の復興支援にかかる諸事業実施

● 復興庁 「心の復興事業」

オーガニックコットン畑を仲立ちとする被災者・避難者交流と自立促進事業（採択済み）

以下の事業内容を実施する。

取り組み1	ふくしまオーガニックコットンプロジェクトによる農業体験 コットン栽培を避難先・帰還地の双方で行うことにより、様々な立場の人が農作業を通して交流する場づくりを進める。特に、避難先でのコットン栽培は「みんなの畑」（いわき市小名浜上神白）と名付けられた避難者が積極的に栽培に関わる圃場で進められる。帰還地においては、双葉郡内の各町内や南相馬市小高区なのでコットン栽培を実施。さらに、県外避難者が暮らす地域でも栽培を促し、離れていても故郷とつながる手法の一つとする。
-------	---

<p>取り組み2</p>	<p>コットン栽培の連作障害を予防するため新規導入する食用作物栽培による 主体的農業体験</p> <p>コットン栽培をこれまで同じ圃場で継続的に実施してきたことから、連作障害を心配する声も上がっている。そこで、大豆等の作物の栽培を挟むことで、連作障害の被害を緩和できるのではないかと考え、コットン畑の一部での大豆栽培を行う。これについては、「みんなの畑」の参加者の中から食用作物の栽培にもチャレンジしたいと声を上げ、昨年度からコットン畑の近くで野菜の栽培を手がけ始めている避難者達が中心的な役割を担えるよう事業設計を行う。</p>
<p>取り組み3</p>	<p>収穫されたコットンを素材とする手仕事を仲立ちとする交流事業</p> <p>「チャルカ」で紡いだ糸を素材としてランプシェードを制作し太陽光でLEDライトを灯すイベントを企画し、3月11日にいわき市久之浜地区で点灯することが計画されている。これは皆で福島産の糸を紡ぎ、太陽光発電の講習会なども組み合わせながら共同の作品づくりを行うもの。ライトアップイベントでは、地域住民に共同で灯した明かりを披露する。本事業では、このイベントの開催にあたって避難者・帰還者の関わりを更に進め、それぞれの住まい方は異なっても、共通の目的を持つことで繋がる仲間意識の醸成を更に進めることを企画している。</p>

● 地球環境基金助成事業

福島浜通りでの帰還を後押し コットンベルト実現化事業 STEP2 (採択済み)

以下の事業内容を実施する。

<p>取り組み1</p>	<p>避難地・帰還地双方での有機農法でのコットン栽培の促進</p> <p>帰還地：帰還後の住民の手によるコットン栽培を通して、帰還を後押しできる地域の魅力づくりに取り組む。この中では、広野町での取り組みでの経験を活かし、帰還住民の中に栽培の主体となり得る人材育成とその組織化を目指す。</p> <p>避難地：いわき市から帰還しないことを決断した避難者たちにとって、コットン栽培を通して避難元市町村との新たな繋がり の形を更に確かなものとする。</p>
<p>取り組み2</p>	<p>都市農村交流事業としての整備</p> <p>風評被害払拭の意味合いも含め、コットンベルトへの首都圏からの農業体験希望者を呼び込むためのプランを作成。都市農村交流の事例として事業化を目指す。モデル地区：いわき市四倉町上柳生地区・南相馬市小高区</p> <p>首都圏でふくしまオーガニックコットンプロジェクトの報告会を開催し、首都圏とのつながりを更に強める。</p>
<p>取り組み3</p>	<p>全国コットンサミットを通しての情報発信</p> <p>平成30年10月7日全国コットンサミットをいわき市において開催し、福島県浜通りの地域再生に向けた道のりと、その中でオーガニックコットン栽培が果たす役割を全国レベルでアピールする。その開催に合わせて双葉郡内でのコットン栽培地を案内するとともに、双葉郡内の現状を知ってもらうためのバスツアーを企画運営する。</p>

(6) 生活困窮者支援事業 フードバンク事業

「フードバンクいわき ザ・ピープル」 フードバンクを通じた被災生活困窮者支援事業
(採択済み)

震災から6年以上が経過し、課題の解決に向けた動きが確認されるようになったが、一方には、新たな地域課題が認識され始めている。震災・原発事故に起因する生活困窮者の出現である。復興特需の去った後の被災地における身近な問題として自覚する必要があると本会では考える。そこで、こうした問題を震災後の被災者・避難者支援事業の延長線上にあるものとして、ジャパンプラットフォーム(JPF)の支援を得て、食料支援を通じた困窮者支援の体制を確立し、実際に生活困窮世帯の困難解消を目指す。6月1日からの小名浜地区におけるモデル地区運用を皮切りに、事業を開始する。

(7) 組織の世代交代促進事業

(8) その他

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に関する事業

定款の事業名	事業内容	(A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	支出額 (千円)
古着リサイクル関連事業	古着回収・仕分け等リサイクル基盤事業	(A)常時 (B)いわき市内各リサイクルボックス いわき市小名浜志賀倉庫 (C)10名×20日×12月	(D)一般市民ならびに全国の賛同者 (E)不特定	7,400
	エコウルリサイクル事業およびリメイク品製作販売事業	(A)発送準備および反毛加工、リメイク品製作：常時 発送：毎月平均2回 (B)いわき市内小名浜ファイバーリサイクル倉庫・志賀倉庫・リメイク工房 (C)発送：1名×24回 反毛：1名×10回 リメイク品製作：3名	(D)一般市民ならびに全国の賛同者 (E)不特定	6,000
	常設・臨時バザー出店事業	(A)常時 (B)いわき市内チャリティーショップ各店・イベント会場 (C)常設バザー30名	(D)一般市民 (E)不特定	10,000
	チャリティーショップネットワーク参画事業	(A)年4回程度 (B)都内 (C)1,2名	(D)各店舗スタッフ (E)30名	20
在宅障がい者自立支援事業	バザー用古着・ウエス材提供事業	(A)常時 (B)いわき市内小名浜志賀倉庫 (C)10名	(D)いわき市内障がい者関連施設 (E)25名	650
海外生活支援・海外教育支援事業	タイにおける支援事業・ミクロネシアに対する支援事業	(A)未定 (B)タイ国ナーン県・ミクロネシア (C)1名	(D)タイ国ナーン県チュムチョムシラレーン中学校生徒・ミクロネシア離島住民 (E)少数民族2名・離島女性20名ほか	10

情報発信事業	会報発行・HP管理・エコプロダクツ展	(A)会報:4回・HP:常時/出展:12月 (B)会報・HP:事務局/出展:東京都江東区 (C)会報各号4名/出展:4名	(D)一般市民・首都圏民 (E)不特定	350
ワークショップ・講演会・市民啓発事業	ワークショップ・講演会事業	(A)未定 (B)未定 (C)未定	(D)一般市民 (E)不特定	0
ボランティア活動体験・研修受け入れ事業	いわきアカデミア事業いわき発見ゼミ受け入れ	(A)7月・12月 (B)いわき市内コッتون畑 (C)各回4名	(D)いわき市内高校生 (E)80名	0
関係団体との交流・連携・協力事業	いわき市民間国際交流・協力団体連絡会事務局業務	(A)常時 (B)事務局 (C)2名	(D)いわき市内国際交流・協力関係団体 (E)10団体	0
被災者支援に関する事業	東日本大震災救援・復興支援事業 小名浜地区復興支援ボランティアセンター運営業務	(A)常時 (B)事務局・小名浜ボランティアセンター等 (C)専門スタッフ2名・ボランティア2名	(D)東日本大震災被災者並びに地域住民・首都圏からの視察客 (E)不特定	2,000
第一次産業の活性化に関する事業	いわきオーガニックコットンプロジェクト関連事業	(A)常時 (B)事務局・小名浜ボランティアセンター・市内での綿花栽培地等 (C)専門スタッフ5名・ボランティア等30名	(D)市内農業従事者・原発関連の避難者・首都圏からのボランティア希望者 (E)2000名	10,000
生活困窮者支援事業	フードバンクいわきの開設並びに運営業務	(A)常時 (B)事務局・小名浜ボランティアセンター (C)専門スタッフ4名・補助アルバイト1名	(D)東日本大震災被災者並びに地域住民のうち急を要する生活困窮者 (E)不特定	7,500※
その他の事業	本会活動推進のために必要な事業			200

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	(A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	支出額 (円)
会員研修会・研修旅行の開催	研修会	(A)未定 (B)未定 (C)未定	(D)ボランティアスタッフおよび会員 (E)未定	0